

校内研修計画

山梨市立日下部小学校

1 学校課題

- (1) 児童は、明るく素直で、物事に一生懸命取り組む子が多い。多様な生活環境、価値観、学力観の中で、2極分化の影響が児童にも及んでいることは否めない。家庭の教育力が、児童の基本的な生活習慣、学力に及ぼす影響は大きい。
- (2) 大規模校であるため、迫力ある集団活動が組織できるといった利点はあるが、反面、児童一人一人に学力を保証するためのきめ細かい指導に費やす時間と労力は大きい。
- (3) 自分の考えを伝えたり、相手の考えを理解したりする基本的な言語能力や自他を認め合う力が育まれ、学習集団の高まりもみられるが、依然として個人差は大きい。
- (4) 学習活動のなかに積極的に言語活動を取り入れることで、一人一人がより主体的に授業に参加し、児童自身も自分の変容を自覚できるようになってきた。しかし、その単元で学んだことをいかに他単元や他教科に転化していくのが課題である。

2 研究主題 「確かな学力」を育てる学習活動の研究

副主題

～「意図した言語活動」で教科をつなぐ学習指導の工夫～(1年次)

3 主題設定の理由

本校では、過去2年間、授業に言語活動を取り入れることで児童の考える力を高める学習指導の工夫をテーマに、授業研究を中心とした研究を進めてきた。昨年度、授業の中に教師が意図した言語活動を取り入れることで児童の学ぶ中に考える場面が生まれ、授業のめあてに迫る反応もでてきた。しかし、意図した言語活動によって高まった力が他の単元や他の教科にどのように活用されるのか、児童の見取りや評価により具体性を持たせることが必要なのではないかと、といった課題が指摘された。

本年度はこれらの課題を受け、国語や算数、理科、特別支援等これまでの先行研究で培ってきた「意図した言語活動」の成果をこれまで以上に授業において明確にし、具体的な成果として児童を見取る方法を研究すること、またその成果が他教科にどのように関わりをもって発揮されるのか明らかにしていこうと考えた。

他教科ということで本年度は、3年間の指定を受けている英語科と2年間の指定を受けた体育科をあてる。先行研究の教科と違い、この2教科は本年度まずそれぞれの教科における言語活動について基礎的な研究を進める。先行教科はこれまでの研究成果を活かしつつ、意図した言語活動を仕組んだ授業を提案し、他教科でのつながりの可能性を全体研究で確認する。先行研究の成果やエッセンスを基礎研究で生かすことで総合的に児童の学力の向上をめざすのである。

英語科における3年間の研究期間をベースに、3年後には日下部小学校における「意図した言語活動」が教科間でつながりのある姿として提示できるように研究を進めていきたい。

4 研究仮説

- ・意図した言語活動を授業に仕組み、具体性のある見取りの方法を実践することで、児童の確かな学力が育まれるだろう。(先行教科)
- ・先行教科の成果をもとに英語科・体育科における言語活動を授業に取り入れることで、その教科における児童の確かな学力が育まれるだろう。(英語科・体育科)

5 研究の具体的内容と方法

- (1) 理論研究や実践研究
- (2) 授業研究
- (3) 一人一実践の公開授業
- (4) 特別支援教育の学習会
- (5) 今日的教育課題関連の学習会